

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4690100021
法人名	有限会社 十匠
事業所名	グループホーム うすき
訪問調査日	平成 22 年 2 月 23 日
評価確定日	平成 22 年 3 月 29 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4690100021
法人名	有限会社 十匠
事業所名	グループホーム うすき
所在地	鹿児島市宇宿2丁目13番17 (電話) 099-255-2835

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成22年2月23日	評価確定日	平成22年3月29日

【情報提供票より】(平成22年2月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 27 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 14 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建て,	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000円(水道光熱費)
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2 月 7 日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名
要介護3	8 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.5 歳	最低 68 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	医療法人腎愛会上山病院 ・ 福元歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の周辺は工場や河があり人の賑わいが少ないところである、地域密着型サービスとしての活動が困難な場所にありながら、広い敷地に他のグループホームと一緒に畑を作ったり、地域の人に呼び掛けて夕涼みの会をしたり地域との繋がりに向けて努力をしている。管理者・職員は利用者のペースに合わせたケアをモットーとし利用者の意向を大切にサービスを提供している。若い職員が多く、祖父母と暮らしているようにお互いに支え合いながら過ごしており、家庭的で明るく和やかな雰囲気ホームである。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の改善点は①評価の取り組みを管理者、職員全員で取り組むこと。②同業者との交流を図る。③重度化や終末期の事業所の対応方針の3項目であった。①についての取り組み方に努力は見られるが全員の理解にまでは至っていない。②については取り組みしている。③については今後も引き続き課題が残る。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は管理者が全員に白紙の自己評価票を配り、書き込みのできることを記入し、集めて管理者がまとめている。全職員が項目の内容を理解をするまでには至っていない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>概ね定期的な開催をしているが、記録の不備もある。ホームの状況や職員研修の取り組み、行事活動、職員異動など報告し、メンバーと討議している。討議内容を活かしボランティアの受け入れや、地域行事に参加するなど運営に反映させている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時にはお茶を出しながら意見や相談など話しやすい雰囲気づくりに努めている。敬老会や母の日は家族に参加を呼びかけ、行事後に家族と話し合う機会を設け意見を求めている。出された意見については申し送り簿で全員が共有し運営に反映させたり、意見の内容によっては月1回の職員会議で話し合い運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣は工場地帯で人通りが少なく近隣との交流が難しい中、自治会に加入し、総会ではホームのPRや地域との交流を呼びかけている。ホーム主催の夏祭り(夕涼み会)には民生委員が協力し地域からの参加が実現している。地域のグループホームと畑作りを取り組んだり、ボランティアの受け入れをしたり、中学校の廃品回収に参加するなど地域との交流を図っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念で笑顔が絶えない、安らぎの生活を送れるホームを目指し、家族との絆、地域との交流を支援することが盛り込まれた地域密着型サービスとしての理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は朝礼時の唱和や職員会議で理念に基づいた取り組みができるように話し合っている。職員は笑顔での取り組みを実践しておりホーム内の雰囲気明るく和やかである。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣は工場地帯で人通りが少なく交流が難しい中、自治会に加入し総会ではホームのPRや地域交流を呼び掛けている。ホームの夏祭りには地域住民が参加し、地域のグループホームと共に畑作りに取り組み、ボランティアの受け入、中学校のリサイクル活動に協力するなど地域交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の改善点については具体的に改善されたものや、今後の課題として残るものもある。自己評価の取り組みは、管理者が全員に評価票を配りわかるころを書き込みしてもらいまとめている。管理者は職員と十分な討議時間がとれなかった。	○	管理者は自己評価の活用について職員が全項目についての理解が出来るように努め、職員は項目の意味を理解した上で評価に取り組み、事業所の質の確保につながるように活用して頂きたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね定期的な開催をしている。記録の不備もある。ホームの状況、職員研修の取り組み、行事活動、職員異動など報告し、メンバーと討議している。討議内容を活かしボランティアの受け入れや地域行事に参加するなど運営に活かしている。		

鹿児島県 グループホームうすき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には在宅復帰の利用者のためのアドバイスや更新申請時の相談、助言などもらっている。介護相談員の受け入れや包括支援センター主催の講演会などには参加し、市と連携しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には四季折々のホームたよりでホームの行事の様子、職員紹介、菜園作りの様子などを報告している。面会時や電話で個別の報告をしている。今後は1ヶ月に1回手紙で個別の様子を知らせる計画をしている。	○	毎月家族に個別の報告をされる計画に期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見は言いやすいように、面会時にはお茶を出し、できるだけ話がしやすい雰囲気づくりに努めている。敬老会や母の日の家族参加行事には家族と話し合う場も作っている。出された意見は申し送りノートで伝達したり、職員会議で話し合ったりして運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人は3か所のグループホームがあり、やむおえず異動をすることもある。異動が決定した時点で利用者に混乱が起らないように職員間で統一した説明が出来るように話し合っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には出来るだけ参加するようにし、参加できなかった職員も伝達研修を受けることで学習できるように図っている。ホーム内においても感染症や認知症の対応、事故防止など必要な勉強会をしている。資格取得を目指す職員の勤務希望の配慮など職員を育てる取り組みをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しているが活動は停滞している。管理者は毎月開催の同法人のグループホーム管理者会議で事業者間の情報交換を行っている。職員は近隣のグループホームと一緒に畑作りや夏祭りの交流活動を通じてサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの開始前は本人や家族に見学してもらい、ホームの雰囲気や他の利用者と一緒にお茶を飲んだりしながら、納得した上で利用の開始をしている。利用開始時は家での暮らしのペースを保ちながら徐々に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームは若い職員さんが多く、白和えの作り方、味付け、季節の行事、野菜の育て方、十二支の意味など人生の先輩である利用者の知恵袋に頼り、利用者は孫に話すように優しく教え、お互いが感謝し支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時には本人・家族から、暮らし方の希望や意向のアセスメントをしている。開始後は利用者の言葉や行動の情報を職員間で話し合いながら一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者は利用者・家族の希望や要望、主治医の意見、職員の意見を反映しながら利用者本位の暮らしが出来るように介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時は1ヶ月後に介護計画の見直しをしている。その後は期間が終了する前に利用者・家族の要望を取り入れながら職員と話し合い見直しをしている。期間前であっても状況に変化があった場合は現状に即した介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて墓参りや自宅帰り、外食、病院受診、入院している利用者に洗濯物を届けたり、利用者が不安にならないように柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人が希望するかかりつけ医を継続し、2週間に1回の往診をしてもらったり、往診のないかかりつけ医には家族に代わり定期受診を行い、その他の専門医院への受診支援など適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者については家族や医師、職員は繰り返し話し合いを行い全員で方針を共有しながら対応している。ホームとしては重度化や看取りの対応について指針は作成されていない。	○	重度化や終末期についてはホームとしての対応指針を作成され、家族が利用開始段階でホームの指針を共有し、安心してサービスの開始が出来るようにして頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は利用者に対しての言葉かけや対応、個人情報についてミーティングや職員会議で研修を行いプライバシーの確保に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、就寝、入浴など一人ひとりのその日のペースに合わせている。コーヒーや栄養ドリンクを飲みたい人、美容院に出かけたい人など希望に合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きながら献立を作成し、希望や力に合わせた調理をしている。食事は職員と利用者で3か所のテーブルにセットし、機能や気の合う者同士が席を共にし各テーブルに職員が混じりながら楽しそうに食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴できるように準備し、浴槽には午前、午後と湯を入れ替え、一番風呂の好きな人、ゆっくり入りたい人、午前の入浴、午後入浴、気に入った職員の対応など利用者の希望にそいながら楽しんで入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中で得意な掃除、洗濯たたみ、漬物づくり、お盆拭き、繕い物などしてもらい張り合いある生活になるように支援をしている。好きな塗絵や草取り、お喋り、散歩、買い物、花見、ドライブなど楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は広い庭に畑の様子を見に出たり、洗濯物を干したり、川沿いの散歩など車椅子の人も戸外に出るように支援している。買い物や近くのマリンポートにもよく出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。現在2階に外出傾向の利用者があり、職員は見守りに努めて一緒に出るように支援している。見守りが手薄になる時間帯には、危険防止のため2階の出入り口に鍵をすることがある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年は1回自主的な避難訓練(昼間の火災想定)をしている。訓練後に避難誘導路の確認や反省点など話し合っている。消火設備の点検は年1回業者に依頼している。22年3月に消防署の協力で防災訓練を予定している。	○	職員の入替わりもあるため年1回の避難訓練では全員が対応できるとはいいがたい。火災、地震、水害など災害対策の研修や避難訓練の実施を増やされることを望みます。

鹿児島県 グループホームうすき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者は職員に食事のバランスやカロリーなど参考になる本を提供し、職員は参考にしながら献立を作っている。一日の食事・水分摂取量は記録し、摂取量の確認をしながら、補食や調理の工夫で確保できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールにはソファを置きお雛様を飾ったり、壺に桃の花を生けたり訪問し易い雰囲気である。階段は広く緩やかで上りやすく、1階から2階へ訪問し桜島を眺める事が出来る。和室にはテレビやソファなどが置かれ庭に咲いた水仙の花や、家族から届いた桃の花が飾られ落ち着いた家庭の雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口に住所の入った表札がかけてある。家から使い慣れたタンス、神棚、テレビ、若い時の写真、子供や孫の写真、家族が座るための椅子などが持ち込み、家庭の生活が感じられる部屋になっている。一人ひとりが自分らしい部屋の工夫をしている。		